

三日三月三年

「三日三月三年」という言葉は、もともとは「芸事修行」の心構えを説いた言葉で、「3日我慢すれば3か月は耐えられ、3か月耐えられれば3年はもつ」という意味だそうです。

初任から5年目に赴任した学校は、1学年8クラスの大規模校で、副担任の先生も含めると、学年だけで14名の大世帯でした。4月1日から、新入生を迎えるための学年会が毎日繰り返されました。やっていけるのかという不安でいっぱいでしたが、そんな時、学年会が出たのが、ベテラン副担任の「三日三月三年」の話でした。

先生は、「子供たちがすてきな3年間を過ごすためには、最初の3日間、そして最初の夏休みまでの3か月間が大事なんですよ。」と言われました。そして、先生は、手書きの冊子を渡されました。それには、これまでの学年会で共通理解を図ってきたことや学級開きでの話のポイント、班づくりの必要性、班編成についての配慮事項などがまとめられていました。新入生を迎える準備で、あたふたしていた自分にとって、内容も大変参考になるもので、「よし、3年間がんばろう!」という気持ちになり、先生の温かみが伝わってくる冊子でした。その冊子は、しばらくファイルに綴じてしまっていました。

自分が1学年の主任になり、学年の先生、特に若い先生方に、がんばってもらうにはどうしたらよいかを考えていた時、ふと浮かんだのがその冊子でした。自分の経験を含めて改めて冊子を作り直し、先生方に配りました。そして「三日三月三年」の話をして、1年間よろしく願いますと学年会をしめくくりました。その学年は、1年間しか関わることはできませんでしたが、自分にとっては素敵な1年になりました。